

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2990500049		
法人名	(株)ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター榎原醍醐(すずらん)		
所在地	奈良県榎原市醍醐町156番地		
自己評価作成日	令和2年9月15日	評価結果市町村受理日	令和3年1月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/29/index.php?action_kouhou_detail_022_kani=true&JiyosyoCd=2990500049-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	令和2年11月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年に入ってから新型コロナウイルスにより全国的に生活への変化が起きました。当ホームでも安全を優先させて頂き家族様にも面会を控えて頂いて居ます。家族様にはホームでの合同レクの様子や誕生会の様子等の個々のお写真を送らせて頂き家族様より喜んでお電話頂いています。7月から案内のものとオンライン面会もさせて頂き早速家族様に利用頂き元気な様子を見て頂いています。利用者様におかれましては特に体調壊される方も居らずスタッフみんなで喜んで頂いています。又気候の良い季節になって来ましたのでお散歩とか外気浴で気分転換して頂いています。一日も速い終息を願いながら元気に過ごして頂きたく取り組んで行きます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは利用者の言葉に傾聴し意思を尊重する事を大切にしており、サービス担当者会議は可能な限り本人の参加を得て行い、本人の納得が得られ穏やかな暮らしに繋がるよう介護計画を作成しています。以前は年に6回家族会や食事会を行い親睦を図っていましたが、現在は面会も難しい中ホームでは毎月利用者の写真を添えて日常の様子や健康状態を報告したり、細やかに連絡を取り家族が安心に繋がるよう取り組んでいます。また長く勤める職員が多く利用者や家族と馴染みの関係を築き、職員は行事や食事、教育など多くの委員会活動を担い主体的に取り組み、コロナ禍でも楽しめる行事などに繋がっています。また医療を必要としない場合は意向に添って医師や看護師と連携を図り、住み慣れたホームで最期まで過ごせるよう看取り支援にも取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「安全に安心してそして穏やかに暮らして頂く。」をホームの理念として日々の業務を実践しています。そして理念に基づいた環境作りに努めています。進入社員にも説明しています。 見直しの予定はないです。	開設時に作成したホーム独自の理念を継続し、職員や来訪者にも見えるよう玄関に掲示しています。職員の採用前にホーム理念を説明し賛同を得た上で採用しています。カンファレンスや日々の中で課題が生じた時などは理念に立ち戻り、利用者が安全に穏やかに暮らしているか等を振り返り確認しながら実践に繋げています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入っています。コロナ事情で運営推進会議地域への行事参加も出来ていません。	自治会に加入し年に1度行われる地域の掃除に職員が参加したり、広い駐車場で行うホームの秋祭りはフラダンスのボランティア来訪や近所の方が見学に訪れています。また高校生の実習の受け入れや地域の方から雛飾りを貰ったり、地域の会館に花見に出かけています。以前は音楽や踊り等のボランティア来訪や運営推進会議で健康セミナーを行っていましたが現在は中止しており、新型コロナウイルス収束後は再開を予定しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	普段であれば二ヶ月に一回で開催しています。 文章で家族様榎原市へ郵送させて頂いています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	普段開催時は出席頂いています。 相談員さんの訪問も控えています。	会議は家族が参加しやすいよう家族会を兼ね、複数の家族やホームのオーナー、介護相談員や訪問マッサージ師、市職員など多彩なメンバーの参加を得て、健康セミナーを行ったり、工夫しながら開催していました。市からの通達もあり2月から中止し、現在はホームの取り組み等を活動状況報告書にまとめて家族やメンバーに送付し意見を募っています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入退居の書類など介護保険課窓口へ届けている。運営の中で分からないことは電話等で確認させて頂いている。	市職員は運営推進会議には参加を得ており、管理者は窓口に出向く事を心掛け信頼関係を築いており、分からない事は随時相談しアドバイスをしています。市からマスクや消毒液の配布を受けたり、感染症などに関する通達や注意喚起は職員に周知し、届いたアンケートにも協力しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修を行っている。 又研修記録も置いています。意識を持ってケアに取り組んでいます。	年に2回身体拘束に関する研修の実施や毎月の会議時に身体拘束委員会が報告や研修を行い話し合いながら内容を周知しています。体制が手薄になる時は一時的に施錠する事がありますが、基本的には日中玄関やフロアは施錠せず職員間で声を掛け合い見守っています。外に出かけたい方には無理に止めず一緒に出掛ける事もあり拘束感の無いよう対応しています。	

ニチイケアセンター榎原醍醐(すずらん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を行っている。 日々のケアに注意を払い虐待防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度を活用している利用者様が居られるので今後も支援する機会があれば活用していきたいです。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の日は充分お時間を頂きゆっくり説明させて頂いています。その上で署名捺印頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	今年度会議等開催できていません。 家族様には普段の様子や一階二階の合同レクの写真など送らせて頂いています。家族様より喜んでお電話頂いています。	年に6回家族会を行い、その内2回は食事会をするなど親睦を図っていましたが現在は中止しています。家族が安心できるよう毎月利用者の写真を添えて暮らしの様子や健康状態を伝え、細やかに連絡も取り要望が無いかも聞いています。面会についての意見がありオンラインでの面会を始めたり、距離を取り利用者の顔を見てもらった事もあり、状況を見ながら検討しています。また年に1度アンケートを実施しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスやホーム会議等でみんなの意見提案など出しやすい環境作りに努めている。 又管理者職員と普段よりコミュニケーションの中で随時意見交換している。	毎月ホーム会議やフロア毎のカンファレンスを行い職員から意見や提案を聞いており、不参加の職員は事前に意見を出しています。また行事や食事、教育など多くの委員会活動があり、職員は主体的に考え意見を出しており、コロナ禍でも楽しめる行事などに繋げています。また日々の業務の中ではリーダーが中心になり職員から意見を聞いた、様子を見て声をかけ話を聞いています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働き易い明るい環境作りに努めています。 人的環境が一番であると共に出来るだけ個々の話しを聞くようにしています。又キャリアアップ制度があり試験面談でステップでスタッフの意欲と質の向上に繋げています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会議・カンファレンス・委員会活動など出来るだけ調整して参加してもらっています。 働きながらのトレーニングはその時あわせて必要な声かけを行うようにしています。		

ニチイケアセンター榎原醍醐(すずらん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	中止になりましたが 三者関連連絡会に参加し同業者との交流を持ち色々な情報を得てサービス向上に努めています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントをキチンと踏まえて本人や家族のニーズに応えられるように計画を立てて信頼関係が構築できるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には訪問させて頂き家族様の思いや不安を聞かせて頂き少しでも気になる事があれば気軽に質問して頂ける様案内し家族様の見学や質問などにも積極的に対応するようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族様 ご本人の意見を伺い必要なケアが提供出来る様対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフも家族言う視点から関わるように、しっかり日常生活の中でコミュニケーションを図り本人の経験や趣味を活かして野菜の世話 料理など負担にならないよう役割を持って頂けるよう努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	今 現在は電話やオンライン面会を実施し利用者様、家族様の思いに寄り添うよう努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今 現在は外出も控えて頂いていますがどうしても 病院へ通院しなければいけない利用者様も居られるので家族様付き添いで行かれて居ます。	家族と共に感染対策を十分に行いながら馴染みのかかりつけ医を定期的に受診したり、友人から葉書が届いた際は利用者とその方にまつわる話などを行っています。コロナ禍以前は友人や親せきなどの来訪や家族と自宅に戻ったり、墓参りに行く方などもいましたが現在は難しい状況です。感染症収束後は馴染みの関係継続の支援を再開したいと考えています。	

ニチイケアセンター榎原醍醐(すずらん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が上手く関わりを持てるよう座る場所を変えたりスタッフが誘導させて頂いたり楽しく安心して過ごせるよう気配りに努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された皆様については差しさわりのない範囲で家族様からの状況を伺い希望により相談を受けさせて頂いたり交流を持っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	共同生活の中で一人ではなく個々の思いに沿った関わりが出来る様に努めています。	入居時に施設や病院等を訪問し本人や家族の希望、生活歴や嗜好等を聞いたり、本人を深く知る為のアセスメント用紙に家族にも分かる事を書いてもらい思いの把握に繋げています。関わりの中で気付いた利用者の思いやその日のつぶやきを記録に残し共有したり、入居後間がない方や思いの把握が困難な方は家族に聞いたり、本人の言葉や様子などを基にカンファレンスで検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談時に本人や家族様からの情報を得られるように努めています。入居後も日常の会話からより多くの情報が得られるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の一人ひとりの状態生活歴等を理解しカンファレンス等で話し合い、日々の記録や水分排泄を確認し普段からの状態の変化に対応できるように取り組んでいます。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現場スタッフを中心に話し合い介護計画を基にモニタリングを行い現状に即したプランの作成に努めています。	介護計画作成時はアセスメントを行い、可能な限り利用者の参加を得てサービス担当者会議を行い作成しています。毎月の会議の中で利用者の変化が無いかを確認し変化がある場合は随時見直し、安定している場合は6ヶ月毎にモニタリングを行い見直しています。また担当者会議に参加できない家族の意向や医師、看護師の意見は来訪時に聞き計画に反映させています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌 介護記録申し送り等でスタッフ共有しケアに活かせるようにします。		

ニチイケアセンター榎原醍醐(すずらん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限り本人や家族様のニーズに応えられるようにその人にあったサービスの提供に取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人が歩んできたこれまでの生活がなるべくとぎれない様に生き生きと暮らせるように支援させて頂いています。又近隣を散歩で楽しんで頂いています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医も大切にホームの主治医、診療所との連携を図りながら協力体制を作り支援させて頂いています。	これまでのかかりつけ医を継続する事ができ家族と受診する方もいます。協力医は2ヶ所から選んでもらい其々月2回往診を受け、他の専門医への受診は家族が付き添い様子はメモで渡し受診結果の報告を受けています。また急な体調変化時は其々の医師に指示を仰いだり、家族に相談し対応しています。必要や希望に応じて訪問歯科や訪問マッサージなどを受ける事ができ、訪問看護師とは相談しやすい関係を築いています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の介護日誌の情報提供で家族様医療介護が連携を取れるように行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は本人さん家族様の意向を重視し相談し又医療連携室の相談員さんとも密に連絡を図り早期退院に向けて対応させて頂いています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	可能な限り長く過ごして頂けるよう家族様の希望や主治医の判断により出来るだけターミナルの対応を行っています。又入居時から終末期の過ごし方に付いて家族様に意向を確認し重度化した場合や終末期には家族様と主治医と連携を行って対応に努めています。	入居時に看取りに関する指針を基に説明し、医療を必要としない場合は希望に沿っており、今年も数件の看取りを支援しています。重度化した場合は家族に医師から説明してもらい意向を確認し方針を決めています。家族は面会を増やしたり、好みの食べ物を届けてもらう等協力を得ていましたが現在は状況を見ながら面会に来てもらっています。職員はケース毎に医師や看護師の助言をもらい後悔の無いよう支援に取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に2回の消防訓練を行っています。加えて救命救急の講習も受けている。		

ニチイケアセンター榎原醍醐(すずらん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非難訓練を実施し手順を全員で共有し緊急連絡網を作成し意識を持って努めています。	年に2回、昼夜を想定した独自の訓練を行い、通報や利用者と一緒に決めた場所への避難、消火器の取り扱い等を行い、内1度は水害を想定しています。参加を予定していた地域の訓練は中止となりましたが運営推進会議で地域の方を受け入れる事を伝えており、その際対応できるよう3日分の食料やカセットコンロ等の備品を準備しています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフが居室に入るときは必ず本人に声を掛けるなどプライバシーを守る接遇を心がけている又その方に合わせた話しかけがなされる配慮をさせて頂いています。	利用者の意思を尊重し否定しない事などを大切にしており、会議時などに委員会を中心に研修の機会やマナーなどについて職員間で話し合っています。日頃は丁寧な言葉かけや対応を心掛けており、方言を交え個々に合わせた対応に努めています。本人に分かりやすい苗字以外の呼び方をする際は家族とも相談しながら決めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の中で食事の準備や片付け洗濯たみみの声かけ等庭やベランダに気軽に出られることもあります。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々のスケジュールの中にやって頂きたいことを取り入れて取り組んでいます。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方が持っているお洒落心を大切にその日の服装を選んで頂き又その日その日の声かけなどさせて頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、配膳、片付け等自発的に参加して頂き又畑で収穫した野菜を食事に取り入れている為普段からなるべく利用者様と一緒にさせて頂いている。そしてメニューや調理方を教えて頂いたりしています。	買い物や配達してもらった食材を見ながら希望や旬の物に配慮して献立を決め、利用者は味見や盛り付け、洗い物等に携わっています。月に1度は寿司の出前を楽しみ、鍋料理や土用の鰻等季節行事にも配慮しています。パン屋の訪問販売があり玄関で利用者に好きなパンを選んでもらったり、さつま芋や胡瓜など畑の収穫物も食卓に上がっています。食事は職員も一緒に摂ったりお茶を飲み会話する時間も大切にしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は記録しています。状態に応じて対応お手伝いをさせて頂いています。		

ニチイケアセンター榎原醍醐(すずらん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	特に夕食後口腔ケアお声かけさせて頂き、うがい歯磨き義歯洗浄している。ご本人が出来ない場合スタッフが介助させて頂きます。月二回訪問歯科で口腔ケアマッサージを行っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様の排泄パターンを把握してトイレの声かけや誘導を行っている。又排泄チェック表を使用してある程度予測して紙パンツの使用を減らしている。尿意便意のある方にはさり気ない声かけや見守り確認等で重視した支援を行っている。	個々の記録から排泄リズムを把握したり、排泄のサインを見ながら早めの声掛けや誘導を心掛けており、トイレに座り排泄できる事を大切に重度の方も二人介助で支援しています。入居時より失敗が減り排泄状況が改善した利用者も多く、紙パンツや布の下着など季節に応じて快適に過ごせるよう検討しています。本人の希望で夜間ポータブルトイレを使用する方もいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日のラジオ体操や散歩など日課にしております。又毎日の水分補給に取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者に希望やタイミングに合わせて出来る限り入浴して頂けるように心がけている。又入浴剤も取り入れて気持ちよく入って頂くよう努めています。	入浴は週に2~3回を目安に午前中から日中の時間帯に支援し、過去には希望を受けて夕食後や毎日入浴していた方もおり、できる限り希望に添えるよう努めています。入浴剤の香りを楽しんだり、家族が届けたシャンプーを使用する方もおり、その方のペースでゆっくり入れるよう支援をしています。入浴拒否が見られる場合は声掛けの工夫や日時を変更し、無理の無いよう入浴支援に繋がっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室は個室になっており本人の希望の応じて少し横になったりお昼寝をしたりテレビを付けたまま寝たりなど自由に使って頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	先生や薬剤師さん方と連携を取りながら個人のお薬ケースと説明利用し服薬管理を利用し服薬管理を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の希望により役割を分担して出来る作業を行っています。		

ニチイケアセンター榎原醍醐(すずらん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い日は散歩に出かけるよう努めています。コロナの影響もあり家族様の面会も控えています。	以前は日々の散歩や桜やコスモス等の花見に行ったり、家族と共に外出する方もいましたが今年度は近隣の桜を見に行ったり、回数は減っていますがホーム周辺の散歩や外気浴を兼ねてテラスや広い駐車場に出ておやつを食べる事もあり、気分転換を図っています。感染症収束後には例年通り外出行事を再開したいと考えています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いを預かっています。希望に応じて使えるように支援させて頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつも希望に応じてお電話したりお手紙を出したり出来る環境作りにも努めています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある壁画工作や写真を掲示し何気なく利用者様のお話にも出てきます。廊下や浴室に暖房をつけて温度差のリスクに対応させて頂いています。	玄関や共用空間は利用者の作品や行事の写真を飾ったり、季節に合わせて紅葉などの作品やクリスマスなどの飾り付けを行い季節を感じられるよう配慮をしています。寛げるソファを置き、テーブル席は落ち着いて過ごしたり、話が弾むよう利用者の状況を見ながら柔軟に対応しています。日々掃除や換気に留意し、温湿度計を見たり、利用者の声も聴きながら過ごしやすさよう調整しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者様同士で気の合う方への席の配慮や外が眺められるところにソファを設置するなどして工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭で使われていたタンスや家具など使用されたり写真や趣味で書かれた絵などを飾らせて頂いたりご本人にとって居心地の良い空間となる様に配慮しています。	馴染みの家具等の持ち込みは減っていますが入居時に馴染みの物を持ってきてもらうよう伝えています。筆筒や机と椅子、テレビ等を持参し家族と相談しながらベットの向き等過ごしやすさよう決めています。また自身で描いた絵や本人や家族の写真を飾ったり、持参した道具で編み物や葉書を書いたり、新聞を読んで過ごす方もおり、寛いで過ごせるよう支援をしています。日々換気を行い濡れタオル等で乾燥にも留意をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	スベリ止め素材を使用した床で手すりも多く設置しており食堂、リビング、トイレ等バリアフリーで自由に歩いて移動出来るようにしています。		